

科目名称	成人看護学実習Ⅱ（急性期・周手術期・回復期看護）	学年学期	単位数	時間数
		第3学年 前期	2	90
担当教員	小路 陽子、上原 茂相、渡邊 津子	授業に関わる実務経験	☒ 有（看護師） ☐ 無	

【1】授業概要

手術を受ける患者を受け持ち、急性期・周手術期の対象の看護について学習する。手術前に必要な身体的・精神的準備、不安の軽減、手術による身体的・精神的・社会的影響を理解する。また、術後の状態を把握し、回復過程に応じた日常生活援助の実験の経験から、急性期・周手術期における看護を学ぶ。

【2】学習目標

1. 周手術期（急性期）にある対象を身体的・精神的・社会的側面から捉えることができる。
2. 対象の疾患の病態生理、手術方法、術後の経過や合併症のリスク、手術によって生じる問題を理解し、日常生活の変化を関連させて考えられる。
3. 対象の術前に必要な身体的・精神的準備や術後合併症のリスクをアセスメントすることができる。
4. 術後の対象の回復過程に応じた日常生活拡大・自立への援助を計画し、実施することができる。
5. 看護過程の展開を行うことができる。
6. 実習を通し自己の看護観を深め、今後の自己の課題を考えることができる。

【3】第1看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 人間を理解し、倫理的な態度で看護を実践する力
- 2. あらゆる対象に応じた看護を実践する力
- 3. 地域の特性を看護に生かす力
- 4. 保健・医療・福祉システムにおける連携・協働できる力
- 5. 主体的に学び続ける力

【4】授業計画

※在院日数の短縮により、3週にわたって同じ患者を受け持ち看護過程の展開をできることは少ない。受け持ち期間、受け持ち患者の状態に応じて授業計画は変更される。担当教員と相談しながら実習を行う。

	内容	主な授業形態
実習1週目・実習2週目	・ 病棟オリエンテーションから、病棟の構造・設備を踏まえた患者の入院環境と患者像を理解する。 ・ 手術前・手術後の看護：基本的には受け持ち患者の情報収集から看護過程の展開によってアセスメントし、援助を行う。受け持ちおよび学習状況に応じて、類似した疾患・手術を受ける対象の援助を見学することで学びを深める。ゴードンの11パターンに沿って情報を分析する。どのような健康障害が生じているか考え、日常生活への影響をアセスメントする。 ・ 手術中の看護：受け持ち患者の手術室内での手術・麻酔による影響および看護を見学し、術後の患者への身体的影響を考える。 ・ 受け持ち患者の全体像をもとに、援助が必要な看護問題を考え、看護目標・看護計画を立案する。日々の実習の中で看護計画の実施・評価・修正を行う。 ・ 学生カンファレンスで関連図を踏まえて看護計画について話し合い、よりよい看護実践につなげる。 ・ 受け持ち患者の看護実践や看護場面の見学から、術後の回復状態に応じた日常生活援助、セルフケアを促進させる援助方法の実際、退院後の生活に対する支援の実際を経験し、急性期～回復期における看護を学ぶ。	臨地実習
実習3週目	・ 集中治療室にて、急性期の身体侵襲を受けた対象の看護を理解する。 ・ 病棟でのカンファレンス（ケース、退院支援、NST など）へ参加し、他職種との連携（チームアプローチ）について学ぶ。	

【5】評価方法

成人看護学実習Ⅱの到達度基準に従い、実習での取り組み、実習記録、実習前から実習後までの学習状況から、学生・教員（臨地実習指導者所見含む）で評価を行い、60点以上を合格とする。

【6】教科書

渡邊トシ子：ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践 看護アセスメント ニューヴェルヒロカワ
 T.ヘザー・ハードマン NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023（第12版）医学書院（電子版）

【7】参考書

3 年次 4 月に成人看護学実習オリエンテーションで配布した資料、
成人看護学実習Ⅱ直前オリエンテーションで配布した資料

その他は随時紹介する

【8】受講生へのメッセージ

臨地で患者さんを受け持ち、患者さんの術前から術中、急性期を経て術後回復していく過程で必要な看護は何かを考え、実践する実習です。受け持ち患者さんの手術中の看護を学ぶために、手術見学もします。また、急性期看護を学ぶために、1 日集中治療室の見学実習もあります。既習の看護過程を展開し、学びを深めましょう。